

「安全な水の不足」

Abstract

近年、人口増加や経済成長に加え、地球温暖化が水問題をより一層深刻にしている。というのは、地球温暖化による氷河の融解が、洪水などの水災害や地下水の塩水化などのトラブルの原因となっているのである。そして、このように急増する水問題は、世界の中でも特にアジア・太平洋地域に住む人々に深刻な打撃を与えている。それ故、被害を最小限に食い止めるため、「アジア太平洋水サミット」が昨年12月に、日本の大分県別府市で開かれ、水問題への対応策について政府レベルで話し合う時が持たれた。このエッセイでは、数多くある水問題のうち「安全な水の不足」に焦点を当て、水サミットで提案された対応策をもとに、安全な水を世界中の人々が使えるようにするためにはどうしたら良いか、日本にいる私たちには何が出来るかについて考える。

Discussion

世界の様々な水問題について話し合う「第一回アジア・太平洋水サミット」(以下、水サミット)が、2007年12月3日と4日の2日間にわたり、大分県別府市で開かれた。水は人間の体の約70パーセントを構成しているだけでなく、私たちが日々口にしている食べ物や飲み物にも豊富に含まれ、また私たちが快適に生活するための入浴や洗濯にも必要であるなど、人間が一日でも水に関わらない日はない。このように、私たちが生きていく上で必要不可欠な水に関する問題は、世界中すべての人にとって重大な問題であり、それ故、国・政府レベルで水問題を解決しようとする水サミットは私たちの未来に大きく影響すると言っても過言ではない。今回このエッセイでは、水サミットで話し合われた多くの水問題のうち「安全な水の不足」を取り上げ、水サミットで提案された解決策から、今私たちがいるところで出来る対応策は何かについて考えてみたい。

問題への対応策を考えるには、まず、水問題の現状をよく知っておかなければならない。国連がまとめた報告書によると、安全な水を飲めない人は世界で12億人にのぼり、このうち約60パーセントがアジア・太平洋地域で暮らしているという。非衛生的な水を飲めば病気になりやすい。だからといって安全な水を得るには何時間もかけて汲みに行かなければならない。しかし、そうすると一日の大半は水汲みだけで終わってしまい、学校や仕事場に行けなくなる。世界の12億人の貧しい人々はこのようなジレンマを抱え日々生活している。

どうしてこのような安全な水を確保できない状況が生まれてしまったのかに

については、人口の増加・都市化、経済成長など様々な要因が考えられるが、ここ数年一番問題視されている要因は地球温暖化である。温暖化が安全な水の不足の原因だと言われる所以には、まず、温暖化の影響で氷が解け、海水面が上昇し、地下水の塩水化が起こったという事が挙げられる。また、温暖化によって降雨パターンが極端になり、日照りや豪雨が増え、安定的な水の供給が難しくなったということもある。先進国の場合は、将来的に温暖化がより深刻になった時には限界があるだろうが、現段階では大規模な貯水ダム建設などによって、温暖化の脅威に打ち勝つ能力や資金がある。しかし、貧しい発展途上国の場合は、先進国が行っているような対応策を実施することが出来ないため、安全な水を確保出来なくなってしまっている。

地球温暖化は、アメリカや日本を初めとする先進国の経済成長と比例して深刻化してきた問題である。それ故、現在の発展途上国の水の不足は先進国に大きな責任があり、先進国は途上国の為にも自国の為にも水問題の被害を最小限に食い止める努力をする必要がある。

水サミットでは、安全な飲み水を利用できない人たちを2015年までに半減させ、25年までにはゼロにするという目標が掲げられ、この目標を達成するための様々な解決策が提案された。

その対応策の中の一つに、「途上国に貯水ダムを建設すること」というのがあがるが、これを実践するには巨額の費用が必要である。それ故、今私がダム建設の為に出来ることは、水問題対策のための適応募金に協力するという事であるが、ダム建設には費用の問題の他、生態系や環境の破壊などの問題があるため、貯水ダムが途上国を救えるとは限らない。したがって、現地の人々のニーズに合わせて、貯水ダムを建設する代わりに井戸を掘ったり、海水を淡水化させる技術を伝授したりするなど、対応を変える必要があるであろう。

その他、日本にいても出来ることは、仮想水の輸入を減らすために国内産の食料を買うということが挙げられる。仮想水とは比較的最近使われるようになった概念であるが、これは、食料を生産する過程で使われる水の事を指す。日本の場合、農林水産省の報告書によると、カロリーベースの食料自給率が平成10年度以降40パーセントと横ばいで推移しており、残りの6割の食料は、他国からの輸入品である。つまり、日本は食料の輸入を通して世界中から仮想水を大量に輸入しているということになる。それ故、日本の食料自給率を上げるために、国内産の食料を買うように心掛ければ、少しでも日本への安全な水の集中を防ぎ、途上国に水を還元できるのではないかと考える。

今回、このエッセイを書くに当たり、安全な水を世界中の人が使えるようになるにはどうしたら良いか、今自分がいるところで何が出来るかを真剣に考え、その結果、貯水ダム建設などを資金面で援助することや、日本が食料の輸入を通して途上国の安全な水を搾取するようなことがないようにするために、なる

べく国内産の食料を買うことなどを思いついたが、これらの解決策は継続することが難しく限界があると考え。それ故、もっと簡単で誰もが出来る解決策はないかと考えた時、「水を大切に使うこと」が、結局は一番重要なのではないかと感じた。これは、当たり前のことのようであるが、蛇口を捻れば水が出てくる豊かな環境にいる私たちには意外と出来ていないことである。だから、私たちが日々の生活の中で水を使う時、安全な水を飲めない世界の12億の人々に思いを馳せ、無駄使いしないように心掛ければ、水不足も少しは解消されることが考える。水サミットで提案された解決策に比べると「水を大切に使う」という試みは取るに足らない小さなことのように感じるが、このような小さな取り組みが積み重なった時、水不足という大きな問題を解決することに繋がるのだと考える。

参考文献

- (1) 農林水産省、「我が国の食料自給率」、2007年
<http://www.maff.go.jp/j/zyukyu/fbs/dat-fyls/sankou2.pdf>
- (2) 朝日新聞、「別府で世界の水議論、来月アジア太平洋水サミット」
2007年11月25日、
<http://database.asahi.com/library/simple/s-detail.php>
- (3) 朝日新聞、「水問題、市民身近にサミット閉幕、催し参加や首脳と交流/大分県」、2007年12月5日
<http://database.asahi.com/library/simple/s-detail.php>
- (4) 朝日新聞、「汚染はひとつではない」2007年12月7日
- (5) 朝日新聞、「深刻、水問題」、2008年1月16日